

朝倉団地の活性化で連携協定

知多市、日福大、URが締結

【知多】知多市、日本福祉大学、UR都市機構は23日、知多市つつけ丘の朝倉団地と周辺地域の地域活性化を図る連携協定をそれぞれ締結した。市と同大学は2016年に包括連携協定を締結しており、今回は市とURとで地域活性化包括連携協定、URと同大学とで連携協定を締結。3者

間の連携関係を構築した。

当面は、朝倉団地の空き店舗を活用したコミュニティスペースを開設するほか、同団地に大学生の居住



左から児玉学長、菅沼支社長、宮島市長

誘致を推進する。そのほか同スペースを活用したサロンやイベントの実施、地域団体や企業と連携した健康増進、多文化共生の取り組み、学生向け家賃割引制度などを行う。

宮島壽男市長は「これを契機に、地域の課題解決に向けた取り組みを進め『未来につなぐ明るい元気なまち』実現につなげたい」とあいさつ。

URの菅沼明中部支社長は「朝倉団地は約1200戸で、知多半島では唯一のUR賃貸住宅。URでは、大規模団地を地域資源として活用する『地域医療福祉拠点化』を進めている。今後、朝倉団地の皆さまのお役に立てるようまい進する」と話した。同大学の児玉善郎学長は「3者の連携が具体的な成果につながると期待している」と語った。